

□議員名：白井健一郎

1 沖中川の治水について

論点	高千帆排水機場と下木屋排水機場にはどのような排水設備があり、豪雨時にはどのような基準で起動させるか。
回答	前者はポンプ3台で毎秒13.5トンの排水能力を有する。令和元年度までに改修を終えた。起動の基準は内水位マイナス0.45メートル。後者はポンプ3台で毎秒3トンの排水能力。運転は、上流の雨量や降水予測等を勘案しながらタイミングを判断している。

論点	高千帆と下木屋の排水機場以外に、水量調整等の設備は無いか。
回答	高千帆排水機場の敷地内に西高泊排水機場がある。ポンプ1台で排水能力は毎秒0.4トン。加えて、高千帆と西高泊には水位計があり、遠隔監視システムを導入している。下木屋には水位計は無いが、県土木防災情報システムを利用しているため、豪雨時にはそれらを確認している。

論点	沖中川の10年確率降雨強度は、現状の55ミリメートル・パー・アワーで適当か。もっと頻繁に豪雨があるのではないか。
回答	近年の雨量に対応するため、令和2年度に本市の10年確率降雨強度は56ミリメートル・パー・アワーに変更された。雨水施設の整備については、地域の実情に応じて段階的に整備をしていくことになる。

論点	平成29年夏に日の出3丁目で激しい溢水（いっすい）が起きたが、この原因は何だと結論付けたか。
回答	同年7月18日午前4時から7時までの間に最大で1時間に30ミリメートル、総雨量61ミリメートルの雨を観測した。潮位も午前3時頃に満潮を迎えたので、沖中川の水位が高い状態のまま大雨が降って、溢水したものと考えている。

論点	沖中川・長田屋川・江川の高千帆地区流域一帯の雨水排水整備計画を、段階的に展開する計画はどうなったのか。
回答	小野田駅前、市役所、市民病院周辺で浸水被害が多発しており、沖中川対策を最優先に進めるべきと考えている。しかし、平成27年度作成の高千帆地区雨水整備計画は用地交渉難航で困難となり、新たに令和3年度に沖中川のJR山陽本線の北側で、水路やポンプ場を設置する計画案を策定している。

論点	ここ数年の豪雨災害を防ぐという観点から、高千帆と下木屋の排水機場の保守点検は適切になされているか。
回答	高千帆と西高泊についてはポンプ設備及び電気設備を管理者が毎月1回、機能保全計画に基づき県・市・高千帆土地改良区の共同点検を毎年1回実施している。下木屋は年8回の点検のほか、梅雨時期前には毎年排水ポンプと発電機の試運転をして、正常稼働を確認している。

論点	治水のため、沖中川をしゅんせつする予定はないか。
回答	沖中川については、藻が繁茂しているため、小規模土地改良事業で除去の予定。日の出川については、しゅんせつの必要はないと判断している。

2 多様性のある市政について

論点	市長が令和4年度の施政方針で述べた「多様性を認め合い、受け入れる仕組み」とは具体的にいかなるものか。
回答	多様とは性別、年齢、人種、国籍、障害の有無、性的指向、宗教、信条、価値観に加え、キャリアや経験、働き方も含まれる。この人と人のつながりを基盤として、市の持続性を担保するために令和3年に協創によるまちづくり推進指針を策定した。協創の場では、それぞれの特性を生かし資源を持ち寄り、対等に協力して共に働き、新しい価値を創出する。

論 点	市長が「女と男（ひととひと）の一行詩」の募集を取り辞めたのは、抽象的に性別のみに着目する発想が時代に合わなくなってきたことも理由の一つか。
回答	家事分担や子育てに関する応募に偏ってきたことに加え、性の多様化を踏まえて「女と男（ひととひと）」の用語を控えた。今年度はスマイルが多様性につながっていくイメージを膨らませ、タイトルを「明日をともに考える笑顔の一行詩」とし、テーマを「誰もがいきいきと笑顔で輝けるまちへ」と変更した。